

## 公共施設等適正配置基本計画に関するワークショップ実施報告書

テーマ：学校教育施設への複合化・多機能化の課題・留意点について

### 【ワークショップ概要】

実施対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等適正配置基本計画に関するアンケート調査対象者（希望者）による市民8名</li> <li>公募による市民4名</li> </ul> <p style="text-align: right;">計12名</p>
グループ構成	<p>A班：市民6名、ファシリテーター2名</p> <p>B班：市民6名、ファシリテーター1名</p>
日時	<p>第1回 平成28年3月26日（土）午後1時～3時</p> <p>第2回 平成28年4月16日（土）午後1時～3時</p>
場所	泉大津市職員会館（市役所横）3階集会室
内容	<p>第1回：課題の抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>状況把握、本市の取組事例、課題等の抽出</li> </ul> <p>第2回：留意点の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題等の整理、実施に向けた留意点の整理</li> </ul>

### 【背景・目的】

公共施設の適正配置を推進していく上で、公共施設全体の約半数を占めている学校は、基盤となる施設であり、義務教育を施す施設であることや、災害時における避難場所であることから長寿命化を図り、適切な維持管理を行う必要がある。

また、今後、予想される児童数・生徒数の減少に伴い、余裕教室の活用、大規模改修時に合わせた複合化・多機能化を図ることが重要であり、基本計画を検討する上で、本市の現状や公共施設の課題などをご理解頂き、学校への多機能化・複合化というテーマに絞り、市民からの課題・留意点を整理し、計画に反映することを目的とするものである。

## ■第1回：課題の抽出

(学校教育施設への多機能化・複合化に向けた課題・問題点について)

### ＝活用方法＝

課題を検討する上で、余裕教室の活用方法について意見交換を行い、班内での情報共有を行った。

- ・ **子育て支援** : 育児スペース、保育機能、高齢者と子供の交流
- ・ **コミュニティ** : 市民活動の場 (イベント・サークル等)、会議スペース
- ・ **高齢者福祉** : 高齢者の憩いの場、福祉施設
- ・ **地域開放** : 図書館、理科室等
- ・ **その他** : 民間利用による活用方法

### ＝課題＝

活用方法を踏まえた課題について以下にまとめる。

- ・ **防犯対策** : 安全面の配慮、防犯整備、利用者の管理
- ・ **管理運営** : 管理主体 (組織化)、運営費用 (収益)、周知方法 (集客)
- ・ **利用時間** : 利用時間の制限、騒音問題
- ・ **学校との連携** : 管理主体との連携、児童や生徒と利用者の関わり方

#### 【まとめ】

児童数等の減少に伴い、学校教育施設に今後増加すると予想される余裕教室の活用方法としては、「子育て支援」「コミュニティ」「高齢者福祉」「地域開放」があげられた。

このような利用を促進するための課題として、主に「防犯対策」「管理運営」「利用時間」「学校との連携」の4つの意見に集約された。

特に、「防犯対策」については、子どもの安全に関する意見、「管理運営」については、管理運営を行っていくための、人、物、金が必要であるとの意見が多く挙がっており、余裕教室の活用を検討していくにあたり、特に重要な課題である。

## ■第2回：留意点の抽出、まとめ

(学校教育施設への多機能化・複合化に向けた留意点について)

### ＝留意点＝

第1回でまとめた課題を踏まえた留意点について以下にまとめる。

- **防犯対策**：児童や生徒と利用者の分離（入口、立ち入り禁止区域）  
機械警備や学校の既存セキュリティの活用  
利用者の管理（登録制、入館証等）
- **管理運営**：運営管理主体の設定（利用規則）  
利用料金・徴収方法の設定  
官民が連携した周知方法（広報、HPの活用） など
- **利用時間**：利用時間の区分け（放課後・休日）
- **利用方法**：活動内容による利用空間の分離、利用料金設定、ネット予約

#### <A班のポイント>

- 様々な課題を解消していく上で、それぞれの強みを活かした官民連携による事業推進や、近隣市と連携した広域的な施設の共同利用による効率的な運営を検討していくことが必要である。
- 行政・学校・市民が連携した管理主体（組織）が必要であり、パイロットプロジェクトによる学校施設の貸出等の取組みも有効である。
- 運営を進める上で、利用者を募る周知方法や維持費を賄うための適正な利用料金の徴収も必要である。
- 施設を集約し、学校への多機能化・複合化を検討する上でも交通システムなどアクセス性の向上は必要である。

#### <B班のポイント>

- 教室利用の必要性が出てきた際には、再配置（教室利用）が可能となるような配置としておく必要がある。
- 施設全般に言える事であるが、多機能性を持たせることは必要である。
- 運営を進める上で、運営委員会等の組織の立ち上げや、民間企業と連携した管理運営や、他市の事例を踏まえた事業の推進が必要である。

## 【まとめ】

第1回で意見を出し合った課題に対する留意点について、各班が積極的に議論した。主な意見として「防犯対策」「管理運営」「利用時間」「学校との連携」の4つが挙げられた。

### 「防犯対策」

子どもの安全を最優先に、児童・生徒と利用者の分離やセキュリティ強化等の防犯問題に関する意見が特に多かったことから、十分留意しなければならない。

### 「管理運営」

子どもの安全確保や効率的な管理運営を推進していくためにも、利用方法を定めた利用規則や管理主体の組織化が必要である。また、A・B両班の意見にあるように、近隣市との広域的な施設の共同利用や、官民が連携した効率的な管理運営の検討も有効である。

### 「利用時間」

学校の余裕教室の活用にあたっては、防犯対策に加えて、利用内容により、騒音等の発生も予想されることから、学校側と利用者側の利用時間の区分けが必要である。

### 「学校との連携」

学校施設を利用していく上で、「学校との連携」は必須であり、A班の意見にあるように、行政・学校・市民が連携した管理主体の組織化や、民間への学校施設の貸し出し等（パイロットプロジェクト）の取組みなど様々な手法の検討が必要である。

また、将来的には、児童・生徒数、クラス数の変動に対応するために余裕教室に配置変更が生じることも想定され、B班の意見にあるように、公共施設には、多機能性をもたせることと、弾力的な再配置（教室利用）を可能とするような配慮が必要である。

以上のように、余裕教室の活用を行うにあたっては、様々な課題・留意点があることから、これらを踏まえて検討を進めて行く必要がある。